

2025年2月3日

2025年3月期 第3四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

ハイライト

2025年3月期 第3四半期連結決算

売上高

- ✓ **499億円、前同比2.3%増加**
医療用医薬品事業やアニマルヘルス事業が伸長し、過去最高を更新

売上原価

- ✓ **254億円、売上原価率 前同比0.6ポイント改善**
先発医薬品であるレルミナ、リフキシマ等の浸透による製品ミックス改善が寄与

販売費及び 一般管理費

- ✓ **189億円、売上高販管費率 前同比0.9ポイント増加**
研究開発の進展に伴う費用の増加により、販管費率が上昇

営業利益

- ✓ **54億円、前同比0.6%微減の同水準**
増収に伴い売上総利益は増加したものの、販管費増加の影響で前年同期とほぼ同水準

2025年3月期 通期連結 ※修正はありません

業績予想

- ✓ **売上高 630億円、前同比0.2%増加**
- ✓ **営業利益 67億円、前同比3.1%増加**

損益計算書（連結）

単位：百万円	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	増減額	増減率
売上高	48,824	49,926	1,101	2.3%
営業利益	5,526	5,495	△31	△0.6%
経常利益	5,631	5,446	△184	△3.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,458	4,098	△2,359	△36.5%

増減要因

- ✓ 不安定な国際情勢や資源価格の上昇リスクなど先行き不透明な状況が続く中で、当社グループでは医療用医薬品事業やアニマルヘルス事業が堅調に推移し、増収となりました。
- ✓ 利益面においては、研究開発費等の販管費の増加はあったものの、増収に伴う売上総利益の増加により、営業利益・経常利益ともに前年同期とほぼ同水準の結果となりました。
- ✓ 親会社株主に帰属する四半期純利益については、前年に特別利益として投資有価証券売却益を計上した反動により、前同比36.5%減となりました。

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	43,603	44,055	88.2%	452	1.0%
アニマルヘルス事業	5,096	5,703	11.5%	607	11.9%
その他事業	124	166	0.3%	41	33.6%
合計	48,824	49,926	100.0%	1,101	2.3%

増収要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、毎年の薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。
産婦人科領域の「レルミナ」「ドロエチ」が拡大したほか、内科領域の「チラーヂン」「リフキシマ」も着実に伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業は、飼料添加物を中心に前同比11.9%増加しました。

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期		2025年3月期		ご参考 期初計画	補足事項
			実績	実績	前同比(%)	見込 ^{※4}	前同比(%)		
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ^{※1}	7,558	6,659	△11.9%	8,388	△12.6%	8,626	薬価はダウンしたが数量ベースをほぼ維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	6,104	6,207	1.7%	7,861	0.0%	8,018	長期目線では微増が継続
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	4,572	4,919	7.6%	6,288	7.2%	6,117	ガイドライン浸透とともに堅調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	1,180	1,205	2.1%	1,526	0.3%	1,510	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	655	615	△6.1%	784	△6.7%	806	薬価ダウンの影響
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	7,873	8,331	5.8%	10,726	8.3%	11,251	子宮内膜症のシェア拡大に注力
	GE	月経困難症治療剤 ドロイチ	4,604	5,673	23.2%	7,070	15.4%	5,990	想定以上の大幅な進捗
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	2,556	2,420	△5.3%	3,026	△8.4%	3,101	数量増だが薬価ダウンの影響が大きい
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	1,505	1,834	21.8%	2,341	15.4%	2,106	引き続き堅調に推移
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	562	530	△5.7%	746	2.9%	790	処方提案を継続
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ^{※2}	562	601	7.0%	713	1.0%	665	想定通りの進捗
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ^{※3}	3,476	3,104	△10.7%	3,938	△11.1%	3,962	薬価ダウンの影響

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

※4 第2四半期公表値より修正なし

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2024年3月期 第3四半期	2025年3月期 第3四半期		2025年3月期		ご参考
	実績	実績	増減率(%)	見込	増減率(%)	期初計画
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	3,014	3,565	18.3%	4,456	10.2%	4,031
動物用医薬品 (畜水産+CA [※])	1,957	2,106	7.6%	2,590	4.2%	2,534

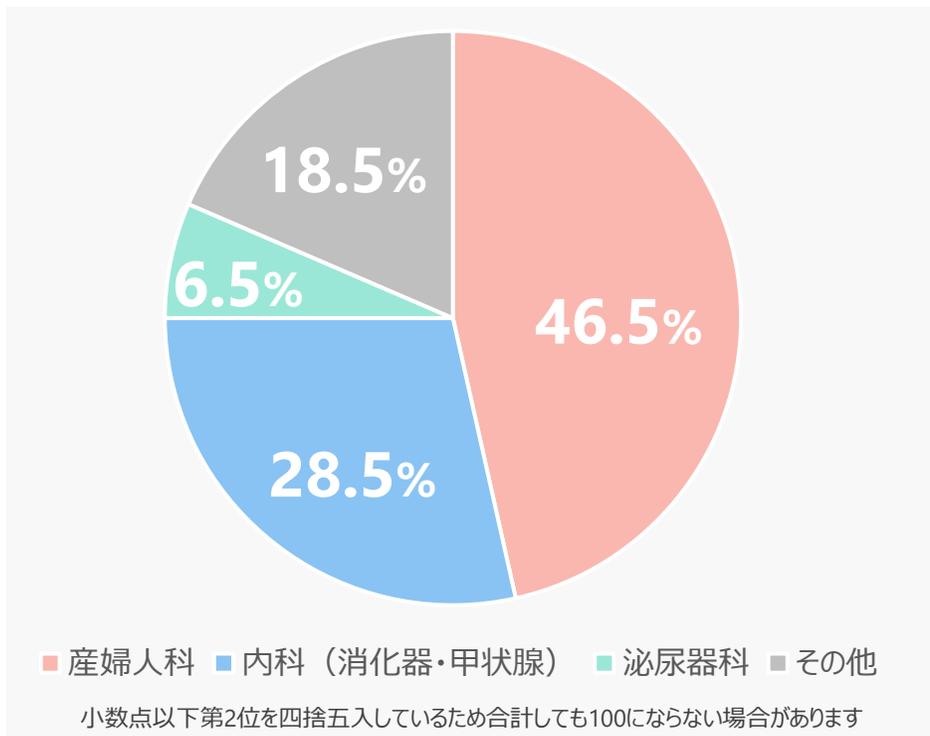
増収要因

- ✓ 2025年3月期第3四半期は、飼料添加物を中心に好調に推移しました。
- ✓ 2025年3月期通期において、飼料添加物の見込み額を上方修正いたしました。

※ コンパニオンアニマル

領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

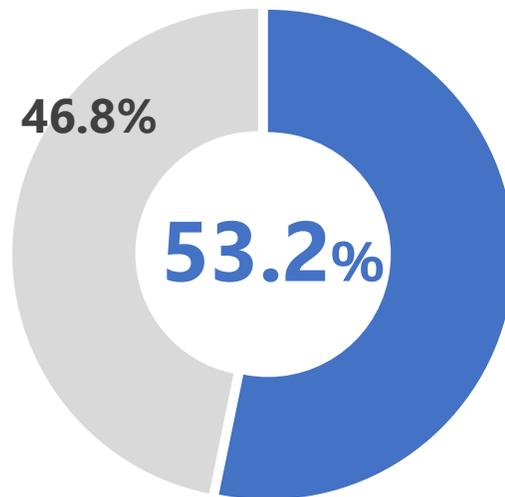
領域別売上高比率※ (2025年3月期第3四半期)



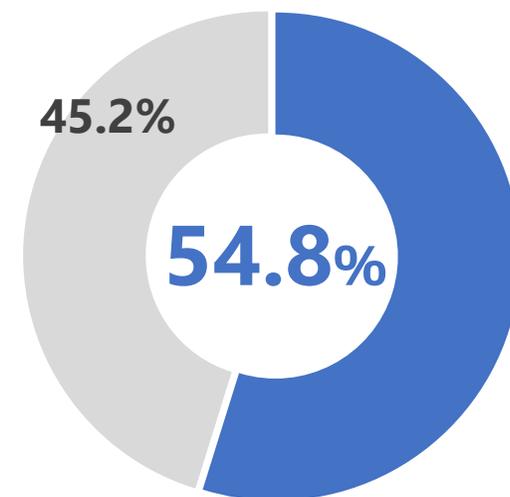
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2024年3月期
第3四半期



2025年3月期
第3四半期



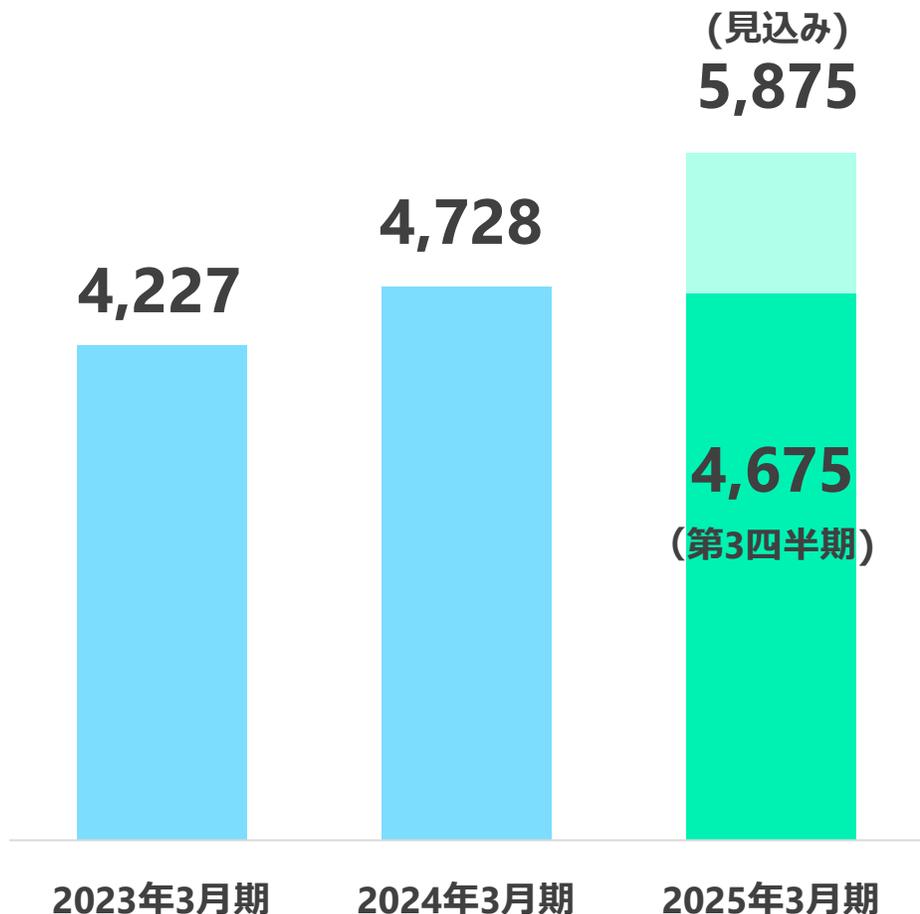
レルミナ、リフキシマ、チラーチンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は1.6ポイント増加しました。

※ 2025年3月期第2四半期より内科領域の品目を見直し、一部製品を「その他」から「内科（消化器・甲状腺）」へ移行

研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



2025年2月3日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	申請済み
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	Ph III 実施中
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮内膜症	開発準備中
AKP-SMD106 (治療用アプリ) 月経前症候群・月経前不快気分障害 (PMS・PMDD)	特定臨床研究 実施中
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III 実施中
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II a 終了*
AKP-021 (mPGES-1阻害剤) 間質性膀胱炎・膀胱痛症候群	Ph I 実施中
AKP-017 (テストステロン経鼻剤)	開発準備中

* 再度実施したPh I 試験の結果を受け次のステップを検討中です